

Heart View [ハートビュー]

企画にあたって

村川裕二(村川内科クリニック 院長)

循環器疾患と接する機会のある読者を念頭に置いて、心電図判読のアップデートな情報を提供するための一冊です。

編者が心電図を学び始めた1980年代は、まだ「心電図学」という分野がありました。循環器疾患の検査法も限られており、心電図が臨床診断のニーズの大部分を引き受けていました。

「電位誘導の理論」、「異常波形が出現するメカニズム」、「波形からの興奮伝播の推測」など難解な議論がありました。

まもなく超音波検査で定量的でダイナミックな情報を得られるようになり、心臓の形態について心電図の役割は小さくなりました。

すると、心電図のテキストから「心電図の理論」の記載が少なくなり、判読の考え方や診断基準は「難解で複雑なもの」から「シンプルで使いやすいもの」に変化しました。

一方では、電気生理学検査やカテーテルアブレーションの進歩、およびBrugada症候群など新たな病態が見出され、心電図の「読み」はいつそう深まっています。

12誘導心電図そのものの仕組みは変わっていないのに、それを支える知識の集積によって心電図判読は進歩したのです。

本書は基本から始まり、不整脈の病態、疫学的知見、電気生理学検査やカテーテルアブレーションにも踏み込んで書かれています。それぞれの項目は短いですが、ちょっとした歴史が盛り込まれています。

診療の経験を重ねても、ベーシックな判読基準を忘れていることがあります。日常診療には差し支えなくても、誰かに手ほどきをするときは基本を押さえていないと心細いものです。このあたりは復習のつもりでご確認ください。

早期再分極のように遭遇する機会がなさそうな病態も、心腔内電位や新しい電気生理の考え方も、12誘導心電図をみる視点の洗練に役立つはずです。

皆さんの日々の診療の一助になることを期待しています。